

利用させていただいた、やまじ風対策協議会、四国中央市立三島南中学校、四国中央市消防本部および四国電力株式会社に感謝します。

引用文献

- 秋山敏夫, 1956: やまじ風の機構に対する考察 (第2報), 研究時報, 8, 627-641.
- 古川武彦, 1966: やまじ風について, 天気, 8, 261-268.
- 紀井伸章, 寺尾 徹, 松村雅文, 森 征洋, 2008: やまじ風発生時の気象状況について (1) — 統計的特徴一, 香川大学教育学部研究報告, 第2部, 第58巻, 第2号, 53-84.
- , 寺尾 徹, 松村雅文, 森 征洋, 2019a: やまじ風発生時の気象状況について (2) — 広域的に見た特徴一, 2019a, 香川大学教育学部研究報告, 第2部, 第69巻, 第2号, 1-44.
- , 寺尾 徹, 森 征洋, 2019b: やまじ風発生時の気象状況について—2003年4月29日の事例一, 天気, 66, 799-807.
- 桑形恒男, 1993: 大型台風にもなった気象官署の突風率の長期変化, 天気, 40, 91-97
- 松山地方气象台, 2007: 平成19年5月16日から17日にかけての愛媛県東予を中心とした暴風について現地調査報告書, 12pp.
- 大阪管区气象台, 1958: 「やまじ風総合調査報告」, 57pp.
- 白鳥 勇, 2000: やまじ風の発生頻度について, 香川大学教育学部平成11年度卒業論文, 49pp.
- 高見佳浩, 1991: 「やまじ風」の調査—やまじ風の発生頻度について—, 日本気象学会関西支部例会講演要旨集, 第58号, 18-21.
- 寺尾 徹, 松岡孝昌, 2011: やまじ風に付随する乱流現象「舞々風」とフェーンの特徴. 香川大学教育学部研究報告第II部, 61, 121-152.
- やまじ風対策協議会, 2003: やまじ風観測記録, 40pp.

【訂正】

香川大学教育学部研究報告第69巻, 第2号 (2019年) に掲載した第2報「やまじ風発生時の気象状況について (2) — 広域的に見た特徴一」に一部間違いがあり, 次のように訂正する.

1) P.23: アンダーラインした部分を追加する.

「4.2.2 翠波峰における風」の節

高度79mの最大瞬間風速に対する, 高度28m, 高度10mのそのの比の平均値を, 5月20日02時から10時までについて求めると, それぞれ0.89, 1.04となる. 高度79mの最大瞬間風速に対して, 高度28mの風は11%小さく, 高度10mの風は4%大きい. 高度10mの風が大きくなるのは, 尾根を越える気流の収束効果として理解できる. 翠波峰鉄塔では, 南よりの風の場合, 高度10mの風と高度79mの風とに大きな差はない. この鉄塔では, 28mの高さのところ, 風速の鉛直成分の観測も行われていたが, どの時刻も平均風速0.0m/sで, 吹き上げは見られなかった.

この事例では, 三島でやまじ風が吹いているとき, 翠波峰では, 南南東の風で, 3高度で各時間の最大瞬間風速は30m/sを超え, 最盛期には45m/sを超える風が吹いている. 高知1576mの風と

比べると、風速の時間変化パターンは似ているが、高知で南風のとくに翠波峰では南南東となっている。翠波峰では、最大瞬間風速は、高知の高度1500m付近の風のおよそ2～2.5倍の強さの風が吹いている。」

2) P.24 : 図19の説明文のうち、「最大風速（10分間平均）」の部分アンダーラインのように改める。

「図19 高知1576mの風と翠波峰鉄塔の風との比較（2005年4月19日15時～20日15時）。最下段は高知1576mにおける10分ごとの平均風速と風向，下から2段目は，翠波峰鉄塔における気温（実線）と高度79mの1時間ごとの前10分間平均風速・風向，下から3段番目は，鉄塔の79m，28m，10mの各高度における各1時間の最大瞬間風速，前10分間の平均風速（黒丸），高知1576mの風速。」

3) P.44 : 「7. まとめ」の文中、「やまじ風が吹いているとき，法皇山脈の翠波峰付近における風は南よりで，高知1500mの風に比べて，2～2.5倍大きくなっていた。」の部分次のように改める。

「やまじ風が吹いているとき，法皇山脈の翠波峰付近における風は南よりで，最大瞬間風速は，高知1500mの風に比べて，2～2.5倍大きくなっていた。」